

歴史資料に見る宮崎の
災害・防災
No. 4

—災害は時を選ばない—
終戦直後の台風と復興

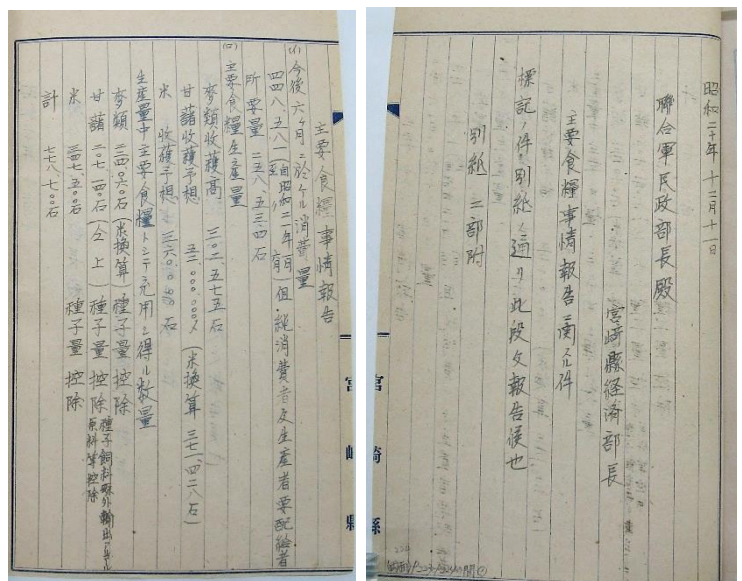
自然災害は私たちの置かれている状況にはお構いなしで襲いかかってきます。75 年前の夏、戦争がようやく終わったその年も、相次いで台風に見舞われました。戦禍に傷ついた人々に追い打ちをかけたのが9月の枕崎台風、10月の阿久根台風でした。

昭和20年9月17日、鹿児島県の枕崎付近に上陸した台風16号(枕崎台風)は日本列島を縦断し、西日本を中心に、全国で死者2,473人、行方不明者1,283人、負傷者2,452人、住宅の損壊89,839棟、住宅浸水273,888棟(いずれも『理科年表』より)という大きな被害を出しました。特に原爆が投下された広島県の被害は甚大でした。翌月には枕崎で最大瞬間風速51.6m/sを観測する台風20号(阿久根台風)が襲来し、再び西日本に被害が出ています。

終戦直前の8月10日から12日にかけて宮崎県内は大空襲をうけ、延岡市、都城市、宮崎市ほか11町村で合わせて214万5,200坪が焼失しました(2341『県務引継書』)。その直後を襲った台風による被害は、9月の枕崎台風によるものだけでも死者82人、負傷者117人、住家被害は倒壊15,240戸、浸水4,108戸を数えています【末尾別表】。耕作地も大きな被害を受け、戦争で生産力が落ちていた食糧の確保は更に厳しいものになりました。

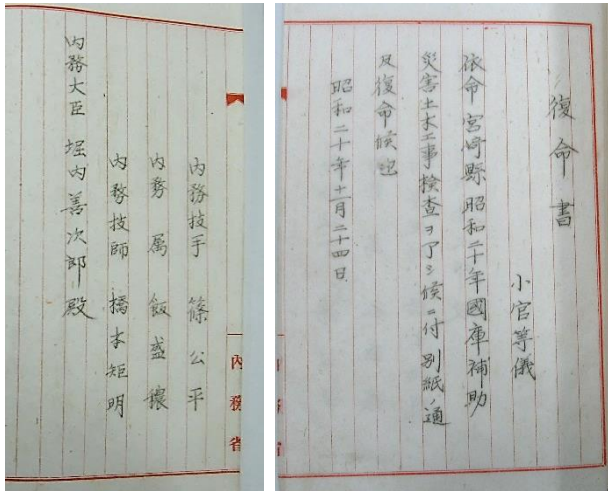
昭和20年12月11日付けで県経済部長から連合軍民生部長マスマン少佐に宛てた「主要食糧事情報告」では、米の収穫予想は大幅な減収となり、平年作75万石のところ5割2分減の36万石の見込みとしています【資料1】。

昭和21米穀年度(昭和20年11月1日~21年10月31日)の米穀消費総量は88万石余で、麦や甘藷などを充当しても新米集荷の11月までに相当量の不足が懸念されました。21年6月、県は「食糧危機打開緊急対策要綱」を策定し、未墾地開発や休閑地利用による米の代替食物の増産と供出の促進、隠蔽食糧の摘発、そのほか食生活工夫改善による食い延ばしに至るまで11項目を示しています。



【資料1】主要食糧事情報告 (部分)
(105845(2-1)『雑書(外務)』)

また、壊れた道路や橋梁の復旧のため、県は総額2,125万円余の20年度災害土木工事国庫補助申請をしています。所蔵資料『風水害』には、その検査のため20年11月に来県した内務省担当者の復命書(控)が残されており、この年襲来した台風とその被害状況が克明に記されています【資料2】。以下にその一部を紹介します。



【資料2】 宮崎県昭和20年国庫補助災害土木工事検査復命書(部分)(105606『風水害』)

〈気象の大要並びに降雨量とその分布状態〉

冒頭に「本年における災害を惹起^{じやつき}せるは8月26日より同27日にわたり襲来したる猛風、9月16日より同17日にわたる^{たいふう}颱風および10月9日より同10日にわたり襲来したる豪雨に伴う暴風雨によるものにして当時の概況を述べれば左のごとし」と記され、宮崎では8月、9月、10月と、立て続けに3度も暴風雨に見舞われたことが被害をより大きなものにしていました。

9月の枕崎台風については、大略次のように記されています。

- ① 9月13日頃マリアナ諸島の中部に748ミリメートル(997ヘクトパスカル)の低気圧が発生した。
(注) 資料では気圧が毫(ミリメートル)で表記されています。1水銀柱ミリメートルは約1.333ヘクトパスカル。
- ② 17日6時には東経128度北緯28度付近で突然700ミリメートル(933ヘクトパスカル)またはそれ以下を示す大颱風となり、九州全域の甚大な被害が予想された。
- ③ 14時30分頃薩摩半島より上陸、16時、都城付近において副颱風を発生し山岳部海岸部とも強烈な暴風雨となった。
- ④ 最大風速は都城で35メートル、宮崎で39メートル、最低気圧は都城で704ミリメートル(938ヘクトパスカル)、宮崎で708ミリメートル(944ヘクトパスカル)を観測した。これは測候所創立以来の記録である。
- ⑤ 暴風継続時間は、17日5時より18日2時までの21時間にわたり、その後、颱風は大分県より山口、広島両県下に猛威を振るい佐渡付近に向かった。

〈主なる河川における出水の様相並びにその程度〉

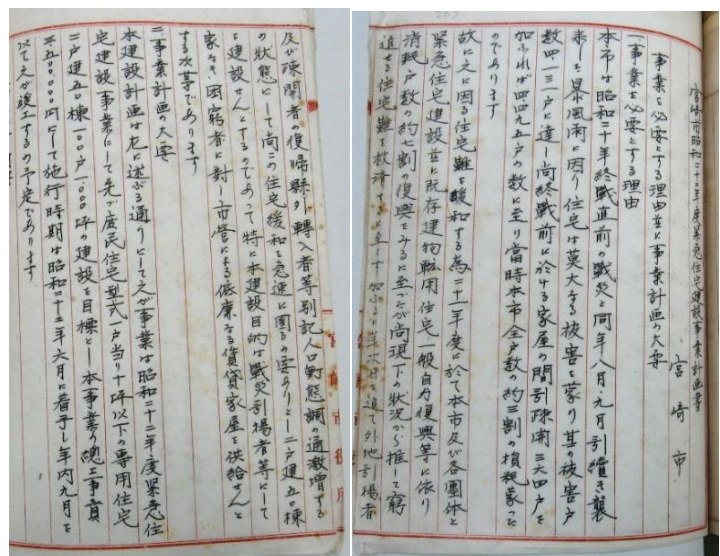
「本県の地勢、一般に急峻なる関係上、河川の多くは概ね急流河川に属し、また地理的に降雨量極めて多量なるため、降雨時においては急激に出水するを常とせり。ことに時局関係にて森林の伐採甚だしきを以て、洪水の流出率の増大、ならびに洪水到達時間短縮等、その影響著しきものあり」と記し、県内の地理的要因に加え、流域山林で造船用材や坑木など軍事物資として大量の木材が伐採されたことが、洪水被害を大きくしていると指摘しています。枕崎台風では3日にわたり雨が降り続き、五ヶ瀬川上流8メートル、下流5メートル、北川7メートルをはじめ11河川の増水が示されています。

このほか〈主なる河川道路及び橋梁等の被害の状況並びに原因〉として、河川の増水による護岸堤防の決壊、流木による橋梁の流失、高潮激浪による岸壁防波堤等の破壊など広範に及ぶ被害について記され、最後に〈査定意見の概要並びに検査額増減の理由〉について、「提出設計は食糧増産並びに交通確保に主眼を置き、緊急やむを得ざるもののみを提出し、工法についても付近の資材を活用、概ね妥当と認めらるるもの多し」としたうえで、申請 715 か所、工費 21,256,395 円に対し、査定 710 か所、工費 19,456,962 円が認められました。その内訳は、県工事、市町村工事あわせて道路 322 か所、河川 222 か所、橋梁 125 か所、港湾 28 か所、海岸 9 か所、砂防 4 か所で、敗戦後の資材不足のなか県下一円に及ぶ復旧工事を必要としていました。

翌 21 年度にも 4 月、6 月、7 月、8 月の 4 回にわたる豪雨出水で被害を受け、1,152 か所 125,964,478 円の国庫補助災害土木工事の採択を見えています。内務技官の調査復命書には、被害の原因として「水源山地の荒廃と土砂流出に伴う川床の著しい上昇が、益々洪水の氾濫を助長している」ことを挙げています。加えて 20 年災害工事が未着工のまま被害にあった所や、地質がシラス系で水を含むと崩壊する所が多いこと、また砂防未指定地区で大災害があり早急に指定の必要があることなどを指摘しています（105609『風水害』）。

道路や橋梁といった社会基盤の復旧整備が行われる一方、生活者の喫緊の問題の一つが住宅難でした。国は終戦直後の 20 年 9 月、罹災者の越冬対策として年内に 30 万戸の応急簡易住宅の建設を決め、県では「戦災及び風水害対策本部」を設け、9 月に住宅課を新設しています。10 月に山口県庁で開催された住宅課長会議では、風水害被害状況と木材自給の現況が加味され、厚生省割当ての応急簡易住宅数 670 戸を 2,100 戸に増加することが認められました。これにより、県は、空襲被害のひどかった延岡市へ 600 戸、宮崎市へ 300 戸、都城市へ 200 戸を配分し住宅営団による年内建設分とし、残り 1,000 戸は自助並びに市町村建設分とし、住宅建設を急ぎました（2341『県務引継書』）。

宮崎市の「昭和 22 年度緊急住宅建設事業計画書」【資料 3】では、緊急住宅建設と既存建物の転用、加えて一般の自助復興によって、21 年度には消耗戸数の約 7 割の復旧を見るに至ったとしています。



【資料 3】宮崎市昭和 22 年度緊急住宅建設事業計画書（部分）（105983『町村条例その他町村制に係る稟請』）

人口および世帯動態調 宮崎市				
昭和 20年	12月	14,934世帯	74,699人	
〃	21年	17,331世帯	83,222人	
〃	〃	19,373世帯	87,904人	
〃	22年	19,929世帯	90,078人	

「昭和 22 年度緊急住宅建設事業計画書」から作成
(105983『町村条例その他町村制に係る稟請』)

それでもなお復員軍人をはじめ、外地
引上げや疎開者の帰郷等による人口激
増は住宅不足に拍車をかけ、22 年度に、
更に 1 戸あたり 10 坪以下の専用住宅 100
戸 (2 戸建 50 棟) の市営賃貸住宅の建設
を計画しています。

終戦後は、住宅建設をはじめ復興のために木材需要は増大し、それが水源山地の荒廃を
招き、大量の雨が降れば河川が氾濫し被害が増長する一因となっていました。

県は昭和 22 年に土砂災害防止対策のため「砂防課」を設置、国は 24 年 6 月、洪水や高
潮による被害を軽減し公共の安全を保持することを目的に「水防法」を制定しています。

くしくも水防法制定の 24 年には、6 月デラ台風、7 月フェイ台風、8 月ジュディス台風
という三つの台風が、翌 25 年 9 月にはキジア台風が、翌々 26 年 10 月にはルース台風と、
次々と大型台風が来襲し、宮崎県では繰り返す災害の復旧に追われました。

近年、記録破りの猛烈な豪雨による災害が日本各地で発生しています。地球温暖化への
対策をすすめるとともに、以前にも増して、治山治水、すばやい気象情報の配信受信、そ
して一人一人の命を守る行動が求められています。

(宮崎県文書センター運営嘱託員 清水正恵)

【別表】 昭和20年9月17日～18日 暴風雨被害状況調 (105606『風水害』所収資料から作成)											
		宮崎郡 (含 宮崎市)	南那珂郡	北諸県郡 (含 都城市)	西諸県郡	児湯郡	東諸県郡	東臼杵郡	西臼杵郡 (含 延岡市)	計	
人畜	死(人)	3		35	13	16	12	3		82	
	傷(人)	8	1	62	19	9	10	8		117	
	行方不明(人)										
	計	11	1	97	32	25	22	11	0	199	
倒壊家屋	住家 (戸)	全潰	896	151	3,103	364	1,616	557	749	2	7,438
		半潰	924	537	3,262	299	1,067	630	1,034	30	7,783
		流失		12					6	1	19
		計	1,820	700	6,365	663	2,683	1,187	1,789	33	15,240
	非住家 (戸)	全潰	621	166	3,097	462	1,561	686	291	10	6,894
		半潰	646	527	3,140	375	1,028	628	384	25	6,753
		流失		11							11
計	1,267	704	6,237	837	2,589	1,314	675	35	13,658		
浸水家屋	住家 (戸)	床上	186	81		443	104	111	461		1,386
		床下	491	134		651	1,030	281	30	105	2,722
		計	677	215	0	1,094	1,134	392	491	105	4,108
	非住家 (戸)	床上	22	3		1,094	36	119	63		1,337
		床下	151			229	183	223	30		816
		計	173	3	0	1,323	219	342	93	0	2,153
損失見積額(円)											
沈没船舶 (隻)	発動船	3	11			4		5		23	
	帆船	10	17			6		7		40	
	和船	13	16			12		14		55	
損失見積額(円)		3,863,980	7,562,420					4,596,000			